

2013年日本建築学会作品選奨

ホキ美術館



[撮影：ナカサアンドパートナーズ]

普通の住宅地のはずれの場所に、杉木立を背景にして、四角い筒が数本、伸びやかに湾曲して横たわっている。杉木立側に回れば、四角い筒のひとつは壁面の下方がガラスで透けており、内部に絵画が掛けられたギャラリーであることがわかる。その筒の端はまた、悠然とまた軽やかに30メートルほども支えのないキャンティレバーで浮かんでいる。全体に落ち着いた建物で静かな印象でありながら、キャンティレバー側からみれば驚くほどのダイナミックな一面を見せる。住宅地側から見るとその筒が1メートルほど、下の箱から軽やかに浮かんで支えられている。

これは個人が収集したスーパーリアリズム絵画のみを展示するギャラリーである。絵画展示に特化していることから、長いギャラリーの組み合わせで全体が構成されている。曲率が少しずつ異なる6本の筒型構造体を、間に月形の中庭を挟んで、3本ずつ重ねている。地下に2本、半地階に2本、地上に2本配置し、そのうち4本がギャラリー、1本がエントランスとレストラン、残る1本と中庭の下部が機械室とサービス空間である。

最初に入るギャラリーが、先述の宙に浮かんだ筒である。長さ100メートルもあるギャラリーの片側の壁面は、ほぼ端から端まで下方1メートルの幅でガラス面となっており、支える柱なく連続して開いている。そのガラス帯からは半地階レベルの中庭の樹木群の幹と緑が連続して見え、その緑が室内に下方からの柔らかな光を入れている。ガラス面の上の壁にも、対面の壁にも、写実的な絵画が並べて展示されている。写実的絵画の丁寧な

正会員 山梨知彦 殿 [(株)日建設計執行役員設計部門代表]

正会員 中本太郎 殿 [(株)日建設計設計部門設計部長]

正会員 鈴木隆 殿 [(株)日建設計設計部門設計担当]

正会員 矢野雅規 殿 [(株)日建設計設計部門設計担当]



やまなし・ともひこ

1960年生まれ。1984年東京藝術大学卒業、1986年東京大学大学院都市工学科修士課程修了。著書に『業界が一変するBIM建設革命』、共著に『ガラス建築』ほか。2009年MIPIM ASIA Special Jury Awards、2011年日本建築学会作品選奨、日本建築家協会賞、2012年日本建築大賞、BCS賞受賞ほか



なかもと・たろう

1966年生まれ。1989年東京藝術大学卒業。1991年同大学大学院美術研究科建築設計専攻修士課程修了。2011年グッドデザイン賞、日本建築士会連合会賞優秀賞、東京建築賞優秀賞、2012年BCS賞、JIA日本建築大賞受賞ほか



すずき・たかし

1978年生まれ。2001年早稲田大学理工学部建築学科卒業。2003年早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了。2009年グッドデザイン賞、2011年AACA賞、2012年千葉県建築文化賞、JIA日本建築大賞受賞ほか



やの・まさり

1980年生まれ。2004年京都大学工学部建築学科卒業。2006年同大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了。2011年日本建築士会連合会賞優秀賞、東京建築賞優秀賞、鈴木楨次賞本賞、2012年BCS賞、JIA日本建築大賞受賞ほか

筆致が落ち着いた雰囲気醸し、また建築の方もそれにふさわしい静謐さを保持し、鑑賞に浸ることのできる空間を提供している。それでありながら、目と意識を建築に向ければ、デザインの驚きの巧みさが浮かび上がる。ゲシュタルト心理学の図と地に例えれば、この建築は地でありながら極めて見応えのある図としても浮かび上がる。それがこの建築を特別な物にしている。

この1階ギャラリーの筐体は、壁厚の内部に骨組みを挟んで箱としての自立的な構造強度を持たせ、連続するガラス面、驚くほど長いキャンティレバー、下階との間のすき間などを可能にしている。他の5本の筒型構造体はRCである。裏側から人のシルエットが見える階段講義スペース、絵画を照らすスリット状トップライト、壁面からの片持ちの階段、長いキャンティレバーを見上げる位置の展示室など、あらゆる場所がすきなく巧みにデザインされている。それでいながら、建築全体の印象はむしろ和やかで控えめな印象である。

都心から離れた住宅地にあり、またスーパーリアリズム絵画のみの所蔵作品展示という美術館でありながら、開館初年度は15万人を超える来館者が日本各地から訪れたという。絵画もさることながら、建築にも手柄があるように思われる。

よって、ここに日本建築学会作品選奨を贈るものである。